

# 教育実習生学習指導案(国語科)

太刀岡勇気

日時(1H)	2012/6/4(月) 4時限, 6/7(木) 1時限, 6/12(火) 3時限	
日時(1E)	2012/6/7(木) 2時限, 6/12(火) 7時限, 6/14(木) 2時限	
単元名	「「間」の感覚」 高階秀爾(第一学習社 国語総合 現代文編)	
単元設定の理由	<p>・教材観…本教材は日本と西洋の二項対立の構造が一貫して書かれており、論説文の経験の浅い高校1年生に対して論理的に読むトレーニングを積むのには最適である。また共通点と相違点が明確に分けられて書かれているため、構造的に整理して文章を読むことができる。</p>	
	<p>・生徒観…生徒は中学の時にある程度論説文を読むトレーニングは受けており、著者の言いたいことを読み取ることはそれほど支障なくできるはずである。</p>	
	<p>・指導観…上述の一文ごとに言いたいことを読み取るだけの平面的な読みを、段落間の構成等を考慮してそれらの関係性を構造的につないで読むことで立体的な読みへと深化させる。またあまりにも二面的に書かれすぎているきらいもあるので、併せて批判的に読む目も養わせる。文中に豊富に用いられている具体例に関しても触れることで生徒の文化的関心を広げることができる。</p>	
単元の目標	1時間目	論説文の基本的な読み方を理解する。 内容に関して、対立構造を十分に理解させながら読む(西欧と日本の自然に対する接し方の違い)。17cのオランダの社会情勢にも想いを至らせる。
	2時間目	内容に関して、対立構造を十分に理解させながら読む(西欧と日本の自然との結びつき、空間・意識面での違い)。
	3時間目	内容に関して、対立構造を十分に理解させながら読む(西欧と日本の意識面での違いと日本文化(「見える文化」vs.「見えない文化」)。全体の構造を振り返って把握し、著者の主張に対し自由に批判させる。
評価の観点	5観点(「話す・聞く」、「読む」、「書く」、「関心・意欲・態度」、「知識・理解」)で評価を行う。本単元ではその中でも「読む」に焦点を当てて評価する。	
指導計画	本単元には3時間配当する。高校に入って「ものごとば」に次いで2つめの論説文なので、読み方についても基本的なところから説明する。構造的には非常に読みやすい文章なので、論理的に読むことに慣れさせる。	
その他	著者は有名人であるので、著者の著書などを紹介しながら、生徒の世界を広げることに留意する。	

	ア 関心・意欲・態度	イ 話す・聞く力	ウ 読む力	エ 書く力	オ 知識・理解
評価規準	教材に興味を持ち、日欧の文化に関して考察することができたか。	発問に対して、自分なりの意見を発言することができたか。	対立構造を十分に意識することができたか。著者の主張を背景知識をもとに深く読むことができたか。	最後まで読んで、自分自身の意見をまとめられたか。	日本社会の意識構造としてよく取り上げられる論点である「うち」「そと」の概念を西欧と比較することで理解することができたか。
学習活動に即した具体的な評価規準	1. 本文の内容に興味を持ち、著者の提示する豊富な例に興味を持てたか。 2. 日本文化の伝統的な側面に興味・関心を持てたか。 3. 著者の意見を批判的に読むことを通して、自分なりの意見を提出することができたか。	1. 音読に対して意欲的に取り組めたか。 2. 自分の意見を論理的に整理して発言することができたか。	1. 日欧の比較を正しく読めたか。 2. それぞれの文化の根底に流れる社会的背景に気づくことができたか。 3. 著者の意見に盲従するのではなく、不十分な点を指摘することができたか。 4. 本文全体の構造を正しく理解できたか。 5. 本文の論理展開の方法を意識することができたか。	1. (正しいかどうかは別として、)自分なりの意見を持つことができたか。	1. ある文化における意識は歴史・社会的背景が影響していることが理解できたか。 2. そのような背景を知ることで、本文のより深い理解ができることを実感できたか。 3. 本文の発展的理解が図れたか。

本時の指導案(1時限目,短縮40min)

目標	論説文の基本的な読み方を理解する。 内容に関して、対立構造を十分に理解させながら読む(西欧と日本の自然に対する接し方の違い)。 17cのオランダの社会情勢にも思いを至らせる。			
過程	学習内容	学習活動	時間	指導上の留意点(◇)および評価の観点(◆)
導入	授業の狙い	国語が総合的な科目であることを理解する	3分	自らの経験をもとに成果をあげる方法と基礎学力の関係について語る。
	論説文の基本的な読み方	論説文で最も重要な論理について学習する	3分	◇論説文の2つの重要な点である論(つなぐ)と理(わかる)に関して説明する。 ◇論説文(論文)を書く立場になって論理的な文章の構成法に関して説明する。 ◇このような技術が将来必ず役に立つことを説明する。
	著者の情報	高階秀爾について知る	4分 (10分)	◇著者のプロフィール(東京教育大学附属中学校・高等学校卒, 東京大学教養学部教養学科卒, 元西洋美術館館長, 大原美術館館長, 『名画を見る眼』(光輪の例)に触れることで、著者を身近に感じさせる。 ◇日本の西洋美術コレクションは実業家によってなされたことを理解する。
	準備	形式段落に分ける(全文)	2分	
	1~3形式段落の読解(例1)	音読 環境vs.人間の日欧のとらえ方の差の理解	4分 10分	◆イ1 問:「住居の構造や空間構成に見られる違いは、日常生活様式や行動規範にもそのまま反映している」のはなぜですか。 答:空間の構成には、文化の違いによる意識の差異が現れているから。 問:共通点はどこですか。答:華麗、生活空間を飾る 問:相違点はどこですか。答:花瓶に生けられたもの(人工物)と自然の中の花(=これだけ際立った対照) ◇外と中のとらえ方の違いに着目させて次につなげる。 ◆本文の該当箇所を指摘できるか確認する(ア1, ウ5)

展開

<p>なぜここで「17cのオランダ」なのか?必然性を考える</p>	<p>10分</p>	<p>◇16c=ルネサンス、17c=バロック(風俗画、静物画) (買い手が変わった) 問:「市民社会を成立させた」とはどういうことですか。 ◇「オレンジ公ウィリアム→スペインから独立→オランダ東インド会社(経済的発展)→30年戦争(全欧的な長期の戦争)→ウェストファリア条約(正式独立)」の流れ=「市民社会の成立(=君主なし⇔絶対王政(フェリペ2世、ルイ13-14世))」を理解する(オ1,2) 問:なぜ西洋の人たちが、自然を克服する意識を持っているのか? 答:自らの力で自らの将来を切り開いてきた自信のあらわれ eg.「世界は神がつくりたもうた。しかしオランダはオランダ人が作った」 ◇キリスト教的な物の考え方、個人主義が影響していることを理解する。 ◆時代背景が正しくつかめているか確認する。 ◇国語が総合的な科目であることに配慮し、入試との関連 についても触れる。(文化論、文明論、存在論→図書紹介)</p>
<p>帰納的アプローチの理解</p>	<p>10分</p>	<p>問:本文において著者が自らの意見を主張する方法にはある特徴がみられますが、それを挙げてみてください。(ウ5) 答:「二項対立」「例示→一般化」 ◇このように豊富な例から一般的な法則を引き出すことが帰納的アプローチであることを理解する。 ◇論説文においては、事実と意見を峻別することが大前提であることを確認する。 ◆例を説明している部分と筆者の主張が明確に区別できているか。</p>
<p>まとめ</p>	<p>4分 (30分)</p>	<p>問:「自然感情の違いを明白に示す」とはどういうことですか。 答:自然から切り離された花を好むvs.自然の中の花を好む</p>

## 本時の指導案(2時限目,1E)

目標	内容に関して、対立構造を十分に理解させながら読む(西欧と日本の自然との結びつき、空間・意識面での違い)。			
過程	学習内容	学習活動	時間	指導上の留意点(◇)および評価の観点(◆)
導入	前時の振り返り	前回は自然に対する接し方の日本と西洋の比較をしたことを思い出す	2分	◇人工vs.自然の対比はよく用いられるので、例を補って説明する。(→板書しながら) 文明論(西欧:自然は克服するもの, 日本:自然は共生するもの) ◇よくつかわれる類型を知っておくと、入試などにおいて速読ができ、著者の主張だけを集中して読むことができることを説明する。
	比較文化論	比較文化の手法に関して学ぶ	3分 (5分)	問:日本人が西洋の文化を研究することにどのような意義があると思いますか。 ◇日本人が西洋文化を研究すれば、自ずと比較文化研究になることを説明する。
	4,5形式段落の読解(例2)	音読 人工のモニュメントvs.自然の情景	2分 5分	◇このような対立が生じることを理解する。(社会的な背景が重要になってくる) 問:「旅行者たちの土産物」はどのような意味を持っていると思いますか。 答:外の人に向けて、アピールしたいポイント(シンボル)(eg.スカイツリー) 答:先進都市の見物(←戦争で荒廃した西欧都市) 問:「人々の目は何よりも自然に向けられていた」のはなぜですか。 答:自然の中に出かけて行って、その美しさを楽しむ文化だから。 ◇江戸の方が西洋よりも却って人口密度が高かったことも想起させる。(江戸において「も」は本当に「も」か?) ◆「アムステルダム=10万都市」vs.「江戸=100万都市」であったことから、西洋が先進的であった(人工物が多かった)ことが理由ではないことに気づけるか。(ウ1.3)
	6~9形式段落の読解	音読 内部-中間領域-外部の構造理解	4分 12分	問:「構造的に自然に向かって開かれている」とはどういうことですか。 答:内部構造が外部構造と連続しているということ。(eg.自然を利用した庭の作り方vs.箱庭的発想) ◇「自然との結びつき」が取り立てられていることに注目する。 ◇「軒下」の空間が持つ構造的な意味とそれに対する意識、裳階に見られる美意識 問:寝殿造と城の構造的な違いを考えてみてください。(ア2) 答:「寝殿造=建物と建物を渡殿でつなぐ」vs.「城=強固な壁の中にたくさんの部屋を作る」→外敵の脅威も影響しているか ◇プリント等を使って視覚的に説明 ◆日本とは異なる環境(戦争が多い、国境が流動的)がこのような構造に影響している(ウ2) 問:「風土的特性」が意味しているところはなんですか。 答:雨が多い日本での軒下の本来の役割。(裳階などのようにわざわざつけることも→美意識とも関係)

展開	10～12形式段落の読解	<p>音読</p> <p>空間と行動様式(意識)における日欧の対立を理解</p> <p>本文の内容を発展させる</p>	2分 7分	<p>◇論理展開の理解</p> <p>問:「ところが」が本文の論理展開において果たしている役割を指摘してください。(ウ5)</p> <p>答:一見すると意外に思うような意見を著者が提出してきていることに気づけるか。</p> <p>◇「ところが」に十分注目させ、6～9段落の内容と10,11段落の内容が分けられていることを確認する。</p> <p>問:「もちろん-だが」という論理展開が果たしている役割を指摘してください。</p> <p>答:譲歩、逆接という構造により本文の説得力を増している。</p> <p>◇「たしかに-しかし」パターンとともに、小論文で役に立つフォームとして説明する。</p> <p>◇論文の書き方に関して説明する。</p> <p>◆「物理的(空間構造)」vs.「心理的(行動様式,意識)」の対立に気づけるか(→板書)</p> <p>問:日本の「内と外を厳しく(明確に)区別するという行動様式(意識)」に対して、西洋の行動様式は明確には書かれていませんが、著者のこれまでの主張に従うとどのようなものであるといえるでしょうか。</p> <p>答:内部と外部が連続している行動様式</p>
まとめ		空間面での対立を十分に理解し、意識面での対立が一見矛盾しているように見える著者の主張を正しく理解する	5分	◇意識面では日本人の方が外と内を峻別することを理解させることに注意する。

## 本時の指導案(3時限目)

目標	内容に関して、対立構造を十分に理解させながら読む(西欧と日本の意識面での違いと日本文化(「見える文化」vs.「見えない文化」)。全体の構造を振り返って把握し、著者の主張に対し自由に批判させる。			
過程	学習内容	学習活動	時間	指導上の留意点(◇)および評価の観点(◆)
導入	前時の振り返り	前回は空間・意識面から日本と西洋を比較したことを思い出す	2分	
	日本における内と外	中世の人たちが現在とは異なる国境感覚を持っていたことを理解する	3分 (5分)	◇文化の意識の面での違いを考える上では、その時々時代の状況が大きくかわっていることを理解させる。 ◆国境の感覚が近代的なものであることを理解しているか 問:国境あるいは日本人という概念は昔の人も持っていたと思いますか。
展開	13,14形式段落の読解	音読  物理的境界vs.心理的境界  聖vs.俗(穢れ), ハレvs.ケの概念を理解	2分  3分  4分	問:壁と鳥居はそれぞれ前回までに出てきたことばを使うとどのような境界であるといえますか。 答:壁=物理的境界、鳥居=心理的(意識的)境界 問:「空間が区別される」(p.160, L.6)とは何が区別されるのでしょうか。  問:日本における聖なる場所の例を挙げてください。 答:「神社」「内裏」(中心(聖)vs.辺縁(ケガレ)) [日欧での聖俗の違い(天皇=神vs.王=王権神授説)] ◆八百万の神(deity)の価値観とキリスト教的価値観(god)の違い(意識の問題)がここに表出していることに気づけているか。(eg.神社は神域全体が聖vs.教会は内部空間が聖)
	15,16形式段落の読解	音読  うちvsそと	3分  2分	問:「目に見えない形で内外の区別が成立する」とはどういうことですか。 答:意識の中で境界を認知しているということ 問:「共通の理解」はわかりやすくいうと何になりますか。 答:常識、しきたり 問:「身内」はある関係性の中で成立」(p.160, L.14)とはどういうことでしょうか。 答:関係によって「身内」となる人が異なるということ。 問:「外国人にわかりにくいものにしていく」(p.160, L.15)のはなぜでしょうか。 答:共通の理解を前提とした関係性であるが、外国人は理解していないため。 問:「共通の理解」が身内意識をもたらすのはなぜでしょうか。 答:共通の理解があることがコミュニティの一員であることを端的に示し、排他意識も生みやすいため。 ◇「うち」は人称としても使われる 問:「うち+そと」以外によく言われる意識の面から見た分類はなんのでしょうか。(オ2) 答:「うら+おもて」

	<p>相対vs.絶対の概念の理解(復習)</p> <p>空間論</p> <p>本文の展開に配慮する</p>	<p>2分</p> <p>2分</p> <p>1分</p>	<p>問:「関係性は時によって変わる」(p.160, L.15)は、どう いうことでしょうか。 問:これを別のことばでいうと何になりますか。 答:相対的な関係 [問:「関係で意味を変える」(p.161, L.6)のはなぜです か。 答:関係に多義性があるから。(ambiguity→あいまい) ◇このように自分の概念にある言葉に引き付けて考 えることでより本文が理解しやすくなることを理解す る 問:「人間社会も空間も時間も関係性という共通した 編み目の中に組み入れられている」(p.161, L.3)とは どういうことですか。 答:互いに影響を及ぼしあいながら、その時々<sup>7</sup>の文脈 に応じてその意味役割を変えるということ。 cf.「空間とふるまい」去年のセンター(鷲田清一「身 ぶりの消失」)</p> <p>問:14段落の関守石の例は本文の論理展開において どのような役割を果たしていると思いますか。(ア2) 答:「関守石」は、人によって自由に移動できることか ら、15,16段落で述べる相対的な関係性の布石となっ ている。</p>
	<p>17形式段 落の読解</p> <p>音読</p> <p>まとめる</p>	<p>2分</p> <p>2分</p> <p>(23 分)</p>	<p>問:「関係性の広がり」(p.161, L.7)とはどういうこと でしょうか。 答:関係性が幅や多様性をもっているということ。 ◇p.160, L.8で「目に見えない形」といっていることに 注目させ、文化には「見える文化」と「見えない文化」 があることを説明→本文冒頭(p.152, L.1)との関連</p>
まとめ	<p>全体の構 造を理解 する</p> <p>全体の構成を図示して、それらの 間の関係性を探る</p>	<p>6分</p>	<p>意味段落(意1~4)に分ける。(全員) 問:全体の意味段落間の関係性を図示してみてください。 (ウ4, ウ5) ◇関係性を図示させる(3分) ◇生徒に当てて説明させる(3分) ◆全体の構造が理解できているか確認する</p>
	<p>批判的に 読む</p> <p>下記課題で生徒が反対の例を挙 げやすいように反対の一例をあげ る</p> <p>本文の主張に関して、これまで読 んできたことを踏まえて自由に意 見を出させる</p>	<p>2分</p> <p>14分</p> <p>(22 分)</p>	<p>問:身内意識が日本で高く、西洋で低いと一概に言え るでしょうか。(ウ3) 答:人の動きが流動的な西欧の都市ではこの関係が 言えるが、実は西欧の郊外では日本以上に身内意 識が強いこともある。(西欧vs.日本→都市vs.郊外)</p> <p>◆著者に盲従するのではなくどれだけ自分の意見 を出せるか 問:著者の意見に対して、賛成ですか、反対ですか? 賛成の場合は著者の主張を補強する例を考えてみ てください。反対の場合は理由を挙げてください。(ア 3, ウ3, エ1) ◇(ワークシートを配布して)自由に意見を書かせる(7 分) ◇賛成の人、反対の人の意見を聞く(できれば複 数)(4分) ◇自己評価を行う</p>



板書事項(1時限目)

「間の感覚」 高階秀爾

住宅の構造・空間構造に見られる日本とヨーロッパの違い

↓ 日常の生活様式・行動規範(意識)

例: 自然に対する接し方の相違

例1

西欧(17cのオランダ)

日本

華麗な花の美を愛好する

自然の美しさを愛する

自然の環境から切り離された切り花

外部から遮断された室内で鑑賞

自然の中に出かけていってその美しさを  
楽しむ

静物画(花の絵)

華麗な草花画

多彩華麗な花の絵で生活空間を飾る

花瓶に生けられたもの(人工物)

自然の中の花

西欧と日本 これだけ際立った対照 ↓ 自然感情の違いを明白に示す

板書事項(2時限目)

17cのオランダ(↓西欧)

日本

例1

花瓶に生けられたもの(人工物)

例2

都市風景(人工)のモニュメント)

↓旅行者たちの土産物として広く流通

(先端都市⇨観光地)

自然の中の花  
自然の情景

アムステルダム⇨10〜20万都市

江戸⇨100万都市

西欧

日本

物理的  
(空間構  
造)

壁(強固な物理的遮蔽物)によって  
内部と外部を明確に区別

建築そのものが構造的に自然に向かって開か  
れている  
内部と外部が連続している空間(その境界が  
あいまい)  
↓中間領域を媒介(例:軒下)

「ところが」

心理的  
(意識、  
価値観、  
感覚)

(内部と外部が連続している行動  
様式)

内と外を厳しく明確に区別するという行動  
様式

板書事項(3時限目)

西欧

教会

壁 || 物理的境界

|| 確定的

内は聖なる場所(ハレ)

外は俗世間(ケ)

唯一神(god)

(だれでも理解できる)

(「身内」は絶対的)

(空間は意味を変えない)

日本

神社

鳥居 || 心理的境界

|| 意識的

内(神域)は聖なる場所(ハレ)

外は俗世間(ケ)

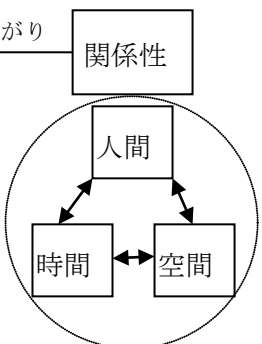
八百万の神(deity)

共通の理解(常識、しきたり)を前提

行動様式が(「身内」でない)とわかりにくい

「身内」はある(相対的な)関係性の中で成立

空間は意味を変える



関係(「間合い」)を正しく見定める

=

「間」の感覚

心理的 || 見えない文化

日本人の行動様式の大きな原理

美意識や倫理

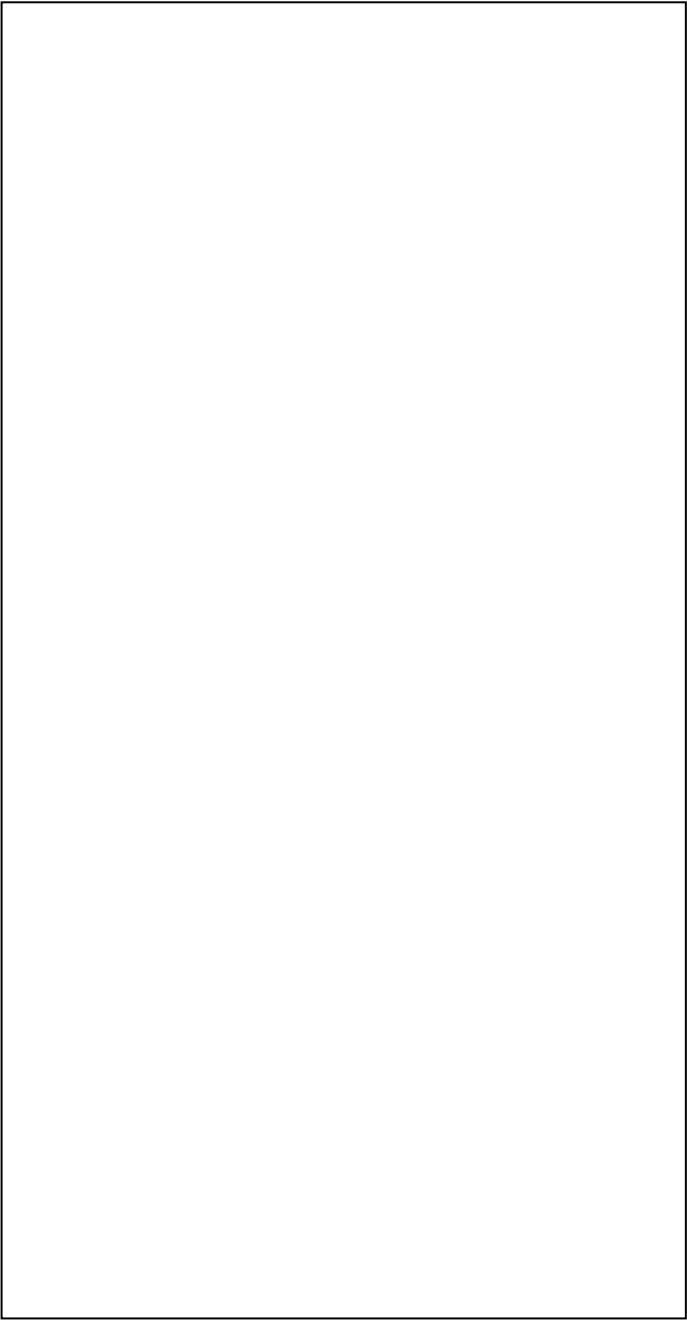
物理的 || 見える文化

住宅の構造や住まい方をも規定

日本文化の理解

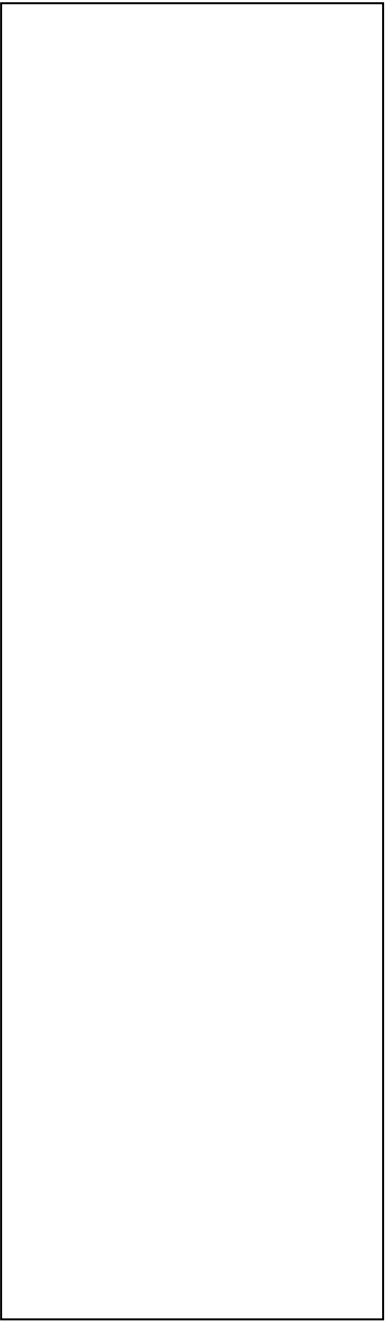
1. 全体の構造を理解する

全体の構造を形式段落番号に基づきいくつかの意味段落に分類し、それらの間の関連を図示してみてください。



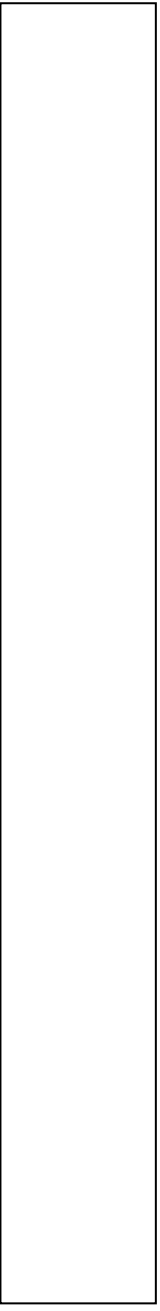
2. 自分の意見を表明する

著者の意見に対して、賛成ですか、反対ですか。賛成の場合は著者の主張を補強する例を考えてみてください。反対の場合は理由を挙げてください。



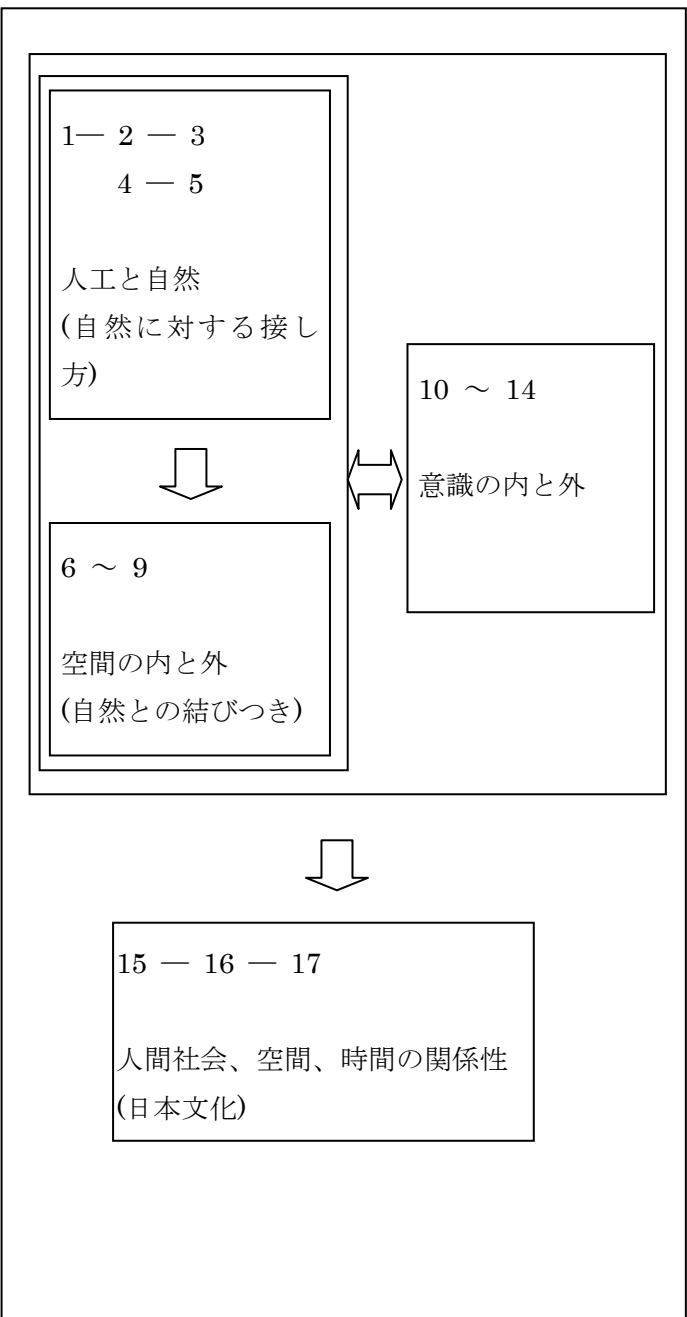
3. 自己評価

この授業（「間」の感覚）を通して、身についたと感じられることは何ですか。



1. 全体の構造を理解する

全体の構造を形式段落番号に基づきいくつかの意味段落に分類し、それらの間の関連を図示してみてください。



2. 自分の意見を表明する

著者の意見に対して、賛成ですか、反対ですか。賛成の場合は著者の主張を補強する例を考えてみてください。反対の場合は理由を挙げてください。

著者は、意識の面での内外の区別を西欧と日本の対立の中でとらえているがそれには疑問がある。たとえば、西欧の郊外において異なるコミュニティからの侵入者に対して非常に排他的であることはよく知られているし、日本の都市においては身内と考える人は固定的であるかもしれない。よってこのような対立は西欧・日本の対立ととらえることもできるが、コミュニティが失われてしまった都市とコミュニティが残っている郊外の対立と考えることもできる。この点において著者の主張は一面的に過ぎると思われる。

3. 自己評価

この授業(「二間」の感覚)を通して、身についたと感じられることは何ですか。

文章を読む際にさまざまな背景知識があると文章を深くよむことができることが分かった。

# Further Reading

## 西洋美術関連

高階秀爾，名画を見る眼，岩波新書，1969.

監修 大原美術館，大原美術館で学ぶ美術入門，JTB，2006.

監修 高階秀爾，西洋美術史，美術出版社，2002.

熊倉洋介他，西洋建築様式史，美術出版社，1995.

## 文芸批評関連

筒井康隆，文学部唯野教授，岩波書店，2000.

川口喬一，岡本靖正(編)，最新文学批評用語辞典，研究社，1998.

江藤茂博他，大学生のための文学レッスン，三省堂，2011.

## 日本文化関連

村井章介，中世日本の内と外，筑摩書房，1999.

大橋理枝，ダニエルロング，日本語からたどる文化，放送大学教材，2011.

藤井貞和，日本語と時間—<時の文法>をたどる—，岩波新書，2010.

## 論説文のトレーニング(つなぐ、わける)

酒井敏行，酒井の現代文ミラクルアイランド，情況出版，1997.